

令和 8 年度
運営に関する計画



大阪市立聖賢小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立聖賢小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

●令和6年度のいじめにつがる事案が『いじめ重大事案』となり、校長を含む管理職やいじめ対策委員会をもっても解決には至らなかった。このことを踏まえて、改めて考えると、大人やテレビの世界では「いじってもらえるからええやん」という言葉を聞くことがある。しかし、児童の側から見ると、「いじる側」と「いじられる側」で上下関係があるのではないかということである。それは、やがて、いじめにつながることを私達教職員は頭において、対応しなければならない。すなわち初動調査やいじめ対策委員会をもって組織としての対応が大切さであるということが改めて痛感した事案であった。そのため、児童のトラブルを含めて、生活指導部長や管理職への報告は必要ではないかと考える。そこで、今後に向けた対応、いじめ対策委員会の設置を協議し、対応を進めていく必要がある。何よりも児童が困ったり、悩んだりしている際には、教員に相談できるという安心感をもつようにすることも重要である。そのためには、日頃から、児童へのコミュニケーションを取っていくこと、達成感や成就感を児童が感じさせることをけいぞくしていかなければならない。もちろん、学校全体で「いじめは許さない」という意思を児童に明確に伝えることはもちろんである。

また、児童自身の自己有用感をどのように高めていくかも課題であると考え。自分自身が満たされていないと、他の児童への攻撃をもってその不満を晴らすこともある。だから、学習面だけでなく、学校行事や縦割り班活動、学級内の学習以外の活動を充実させながら、自分自身の成長がわかるようにキャリアアップシートに書き込む時間を必ず設定することが必要である。

●「主体的・対話的で深い学び」軸に国語科を研究科目として3年目を迎えた。2年間取り組んだ結果としては、以下の通りである。

①学習を支える視覚的な支援や思考を助けるツールの活用

・1年、4年、6年において、話型を示すことで児童が自分の考えをまとめやすくなり、話し合いがスムーズに進む効果があった。一

・全文シートを活用したことで、物語の面白さに気づかせたり、情報の共有（ページ・行の特定）を迅速に行ったりするのに有効であった。

・2年の「食べたいメーター」や4年の「心情曲線」など、心情を可視化する工夫が自力解決や想像力を向上させた。

②体験的・叙述的な読みの深まり

・実際に動いたり具体物を使ったりしたことで、叙述の意味を体験的に捉え、登場人物の心情をより具体的に考えることができた。

・想像だけでなく叙述をもとに考える習慣がついてきた。また、作者や人物像の深い理解が学びを広げることにつながった。

③対話・交流による学びの広がり

1年でのサラダの材料の気づきや、5年での友だちの意見に対する反応の良さ、6年でのデジタルツール（ポジショニング）による意見抽出など、交流による相乗効果が見られた。

一方で、以下のことが課題となった。

① 全体交流や考える時間が長すぎたことで、その分「書く時間」や「振り返りの時間」が短くなった。

今後は「話型」や「定型文」を繰り返し活用し、思考のスピードを上げることで、終末の「振り返り」の時間を充実させる。

② 語句の細かな表現（『ニャーゴ』の「小さな声で」や『注文の多い料理店』の「もう」など）や、挿絵の細部に着目させ、主題や中心人物の心情に迫る指導の充実が必要である。

③ ペア交流が単なる報告会に留まった例もあり、自分と他者との意見の違いを意識させ、交流によって自分の考えがどう変わったか、深まったかを自覚するための振り返りなど、話し合いをより深める手立ての工夫が必要である。

④ 児童を深い学びへ導くためには、教材文分析を丁寧に行い、人物の心情、性格、情景描写等の比較、主題に直結した発問、構造的な板書、交流の目的と効果について考える。

そこで、指導者が文章にある言葉にこだわりをもったり、深めるための発問の手立てを考えたりすることで、児童一人では読み取れなかったことを読み取れ、自分自身の考えに改めて納得したり、自分自身と異なる考えに気づきが生まれたりする。これが児童が学ぶ集団の育成につながるものと考える。

休み時間の運動場での遊びについては、高学年になるにつれて、体を動かす楽しさを味わえていない現状が見られた。体育科の学習は全員が体を動かして活動できる場となる。教員からの助言や称賛の言葉や、児童同士で課題解決のための手立てを考えて取り組む場面が多くしたい。そのためには、場の設定や学習カードを活用することが有効と考える。

●令和7年度は、時間外勤務における年720時間を超えて実施する教員は3.45%であった。しかし、令和6～7年度にいじめ重大事案になり、そうならないようにするために、いじめ事案について、初動の動きが重要となる。一人一人の児童の心の変化に気づき、聞き取りを行い、保護者にも説明をしていく。時には、いじめ対策委員会を立ち上げ解決を図ろうとすると、手立てを考え、その後の状況などを把握する必要があると必然と会議の回数が重なり、事務的な作業や本来すべき教材研究の時間もおろそかにできない。

また、教員自身が達成感や成就感を持つためには、時間を押しまないことも当然予想される。管理職を含めた教員の時間外勤務が年720時間を超えないようにして、心身共に健康に過ごすことが求められる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **62%以上**にする。

(令和7年度 58.9%)

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **85%以上**にする。

(令和7年度 82.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より **2ポイント**向上させる。

(令和7年度 3年 100.4 4年 100.2 5年 99.2)

○小学校学力経年調査における、算数の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より **2ポイント**向上させる。

(令和7年度 3年 101.0 4年 101.1 5年 99.7)

○小学校の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **82%以上**にする。

(令和7年度 79.3%)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する割合を **88%以上**にする。

(令和8年度 85.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **82%以上**にする。

(令和7年度 79.3%)

○令和8年度末児童アンケートの「外国や地域の文化や伝統などに触れるゲストティーチャーによる学習は楽しみ（い）ですか。」において肯定的に答える児童の割合を **75%以上**にする。

(令和7年度 71.4%)

【その他】

○時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員を **0%**にする。

(令和7年度1月まで 3.45%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。

(令和 7 年度 58.9%)

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。

(令和7年度 82.2%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より1ポイント向上させる。

(令和 7 年度 3 年 100.4 4 年 100.2 5 年 99.2)

○小学校学力経年調査における、算数の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より1ポイント向上させる。

(令和 7 年度 3 年 101.0 4 年 101.1 5 年 99.7)

○小学校の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

(令和 7 年度 79.3%)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する割合を 86%以上にする。

(令和 8 年度 85.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

(令和 7 年度 79.3%)

○令和 8 年度末児童アンケートの「外国や地域の文化や伝統などに触れるゲストティーチャーによる学習は楽しみ（い）ですか。」において肯定的に答える児童の割合を 73%以上にする。

(令和 7 年度 71.4%)

【その他】

○時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員を 2%にする。

(令和 7 年度 1 月まで 3.45%)

3 本年度の自己評価結果

--

(様式例 2)

大阪市長 (学校園名) 令和 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。 (令和 7 年度 58.9%) ○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。 (令和 7 年度 82.2%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童と学級担任を中心とした教員とのよりよい人間関係を構築する。	
指標 ・児童が入力する心の天気や相談申告機能を 1 日 1 回以上確認し、必要な場合には対応する。 ・学期に 1 回、児童一人一人から「いじめアンケート」を聞き取りを行い、困りごとや不安を和らげるようにする。 ・いじめ重大事案を引き起こさないように、児童の状況把握に努める。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・児童の心が豊かになったり、達成感や成就感を味わえたりするように学級運営や学校行事、児童会活動等を進める。	
指標 ・3 年以上 1 学期 1 回以上、キャリアパスポートに記述させる。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】	
指標	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

大阪市長 (学校園名) 令和 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、国語の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より1ポイント向上させる。 (令和7年度 3年 100.4 4年 100.2 5年 99.2) ○小学校学力経年調査における、算数の正答率の対全国比を同一集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年より1ポイント向上させる。 (令和7年度 3年 101.0 4年 101.1 5年 99.7) ○小学校の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (令和7年度 79.3%) ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)」やスポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する割合を 86%以上にする。 (令和8年度 85.0%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と授業力向上を図る。 指標 ・昨年度の研究の課題の解決ができるよう研究授業を各学年1本ずつ取り組む。 - また、非常勤講師を除く教員も同様に国語科を中心に公開授業に取り組む。 ・児童アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えに納得したり、思いつかなかった新しい考えに気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する割合を 91%以上にする。 (令和7年度 90%)	
取組内容②【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 ・運動する楽しさや喜び、友だちと関わることのよさを味わわせる。 指標 ・児童アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)」やスポーツをすることが好きですか。」の項目で肯定的に回答する児童の割合を 81%以上にする。(令和7年度 79.2%) ・体育科の学習で、学習カードを2回以上活用したり、記録を残したりする。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】	

指標	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市長 (学校園名) 令和 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「学習用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (令和 7 年度 79.3%) ○時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員を 0 %にする。 (令和 7 年度 1 月まで 3.45%) ○令和 7 年度末児童アンケートの「外国や地域の文化や伝統などに触れるゲストティーチャーによる学習は楽しみ (い) ですか。」において肯定的に答える児童の割合を 73%以上にする。 (令和 7 年度 71.4%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX の推進】 ・児童一人一人が学習の定着を図るため、学習用端末を活用する。 指標 ・1 週間に複数回、日々の宿題や学習時間などで、Navima などの学習アプリを活用して、児童が主体的に取り組むようにする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・働きがいのある職場づくりをめざす。 指標 ・繁忙期を除く退勤時刻を 18 時 30 分に設定する。 ・週 1 回、会議のない日を設定する (水曜日)。 ・事務的な作業をスクールサポートスタッフやワークライフバランス支援に担わせ、児童の成長を考えた業務に取り組む。	
取組内容③【基本的な方向番号、名称】 ・外部講師による授業の実施(教育コミュニティづくりの推進) 指標 ・各学年で体験学習 (地域学習や地域の方を交えた学習を含む) を複数回実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

